

第 48 回
杏林医学会総会
プログラム・抄録集

事務総会

表彰式

市民公開講演会

研究報告

一般口演

会期：令和元年 11 月 16 日（土）

会場：杏林大学医学部 学生講義棟第一講堂～第四講堂

大学院講堂

第48回杏林医学会総会・事務総会

開催日：令和元年11月16日（土曜日）

会場：杏林大学医学部学生講義棟・第一講堂（A会場）

12：00－13：00

式次第

1. 開会の辞
2. 平成30年度事業報告・令和元年度中間報告
3. 平成30年度決算報告
4. 平成30年度監査報告
5. 令和2年度事業予定・令和2年度予算案
6. 第8回学生リサーチ賞・トラベルアワード授与式
7. 第8回研究奨励賞授与式
8. 第4回杏林医学会誌優秀論文賞授与式
9. 一般口演優秀賞・準優秀賞発表
10. 閉会の辞

第一講堂 (A会場)						第二講堂 (B会場)					
時間	内容	座長 コメンテーター	番号	筆頭演者	頁	時間	内容	座長 コメンテーター	番号	筆頭演者	頁
						9:55-10:00	開会挨拶 (集会幹事/呼吸器内科学 滝澤 始 教授)				
10:00-10:10	一般口演	座長： 土岐 真朗 コメンテーター： 三好 潤 (消化器内科学)	A-1	北 幸紘 (形成外科学)	P11	10:00-10:10	一般口演	座長： 苅田 香苗 コメンテーター： 櫻井 拓也 (衛生学公衆衛生学)	B-1	宮岡 智花 (呼吸器内科学)	P15
10:10-10:20			A-2	秋澤 孝虎 (呼吸器内科学)	P12	10:10-10:20			B-2	土屋 あい (乳腺外科学)	P16
10:20-10:30			A-3	三浦 隼 (呼吸器・甲状腺外科学)	P12	10:20-10:30			B-3	伊達 友香 (腎臓・リウマチ膠原病内科学)	P16
10:30-10:40			A-4	阿部 太郎 (呼吸器内科学)	P13	10:30-10:40			B-4	富田 良啓 (泌尿器科学)	P17
10:40-10:50			A-5	横田 理代 (腎臓・リウマチ膠原病内科学)	P13	10:40-10:50			B-5	野田 晃成 (呼吸器内科学)	P17
10:50-11:00			A-6	須田 智也 (総合医療学)	P14	10:50-11:00			休憩		
11:00-12:00	休憩					11:00-11:15	平成30年度保健学部共同研究・個人研究奨励賞報告 令和元年度医学部研究奨励賞報告	座長： 島田 厚良 (保・臨床検査技術学科) 松下 健一 (医・循環器内科学)	B-6	三浦 晶大 (保・臨床検査技術学科)	P18
						11:15-11:30			B-7	木村 雅彦 (保・理学療法学科)	P19
						11:30-11:45			B-8	小原 映 (保・臨床検査技術学科)	P19
						11:45-12:00			B-9	佐藤 俊明 (医・不整脈先端治療学研究講座)	P20
12:00-13:00	事務総会・表彰式					大学院講堂 (市民公開講演会)					
						13:00	開場				
						13:30-15:30	市民公開講演会 「タバコ健康障害、肺の病気を考える」				

第三講堂 (C会場)						第四講堂 (D会場)					
時間	内容	座長 コメンテーター	番号	筆頭演者	頁	時間	内容	座長 コメンテーター	番号	筆頭演者	頁
10:00-10:10	一般口演	座長： 小林 啓一	C-1	山田 賢治 (保・救急救命学科)	P21	10:00-10:10	一般口演	座長： 大木 紫	D-1	中島 裕美 (呼吸器内科学)	P28
10:10-10:20			C-2	山本 雅 (眼科学)	P22	10:10-10:20			D-2	呉 亜沙美 (小児科学)	P29
10:20-10:30		コメンテーター： 丸山 啓介	C-3	渡邊 貴之 (循環器内科学)	P22	10:20-10:30		コメンテーター： 八木 淳一	D-3	笹嶋 寛史 (心臓血管外科学)	P29
10:30-10:40		(脳神経外科 学)	C-4	白土 健 (衛生学公衆衛生学)	P23	10:30-10:40		(統合生理学)	D-4	西山 敬文 (総合研修センター)	P30
10:40-10:50			C-5	家城恵梨子 (呼吸器内科学)	P23	10:40-10:50			D-5	藤麻真理子 (産科婦人科学)	P30
10:50-11:00	休憩					10:50-11:00	休憩				
11:00-11:10	一般口演	座長： 石井 晴之	C-6	柳下 康博 (小児科学)	P24	11:00-11:10	一般口演	座長： 柴田 茂貴	D-6	村上 涼 (呼吸器内科学)	P31
11:10-11:20			C-7	佐々木佑太 (脳神経外科学)	P25	11:10-11:20			D-7	佐々木海人 (消化器・一般外科学)	P32
11:20-11:30		コメンテーター： 渡辺 雅人	C-8	浅野 史男 (産科婦人科学)	P25	11:20-11:30		コメンテーター： 石井 博之	D-8	宜野座淳善 (皮膚科学)	P32
11:30-11:40		(呼吸器内科学)	C-9	片瀬 七朗 (放射線医学)	P26	11:30-11:40		(保・理学療法学科)	D-9	近藤 一哉 (麻酔科学)	P33
11:40-11:50			C-10	石井さなえ (保・臨床検査技術学科)	P26	11:40-11:50			D-10	長谷見次郎 (呼吸器内科学)	P33
11:50-12:00			C-11	島矢沙規子 (総合研修センター)	P27						

※一般口演：1 演題10分

保健学部研究報告：1 演題15分

医学部研究報告：1 演題15分

受賞者一覧

第4回杏林医学会誌優秀論文賞

- 林 滋（血栓症化学研究所）
論文タイトル：高齢の動脈硬化性疾患における動脈硬化の程度と死亡率との関係 —11年間観察による分析と死亡率に寄与する因子について—。杏林医学会雑誌 49巻3号p.193-204掲載, 2018.

第8回研究奨励賞

- 福山雅大（医・皮膚科学）：Chronological clinicopathological characterization of rapidly progressive alopecia areata resistant to multiple i.v. corticosteroid pulse therapies: An implication for improving the efficacy. *Journal of Dermatology* 45(9):1071-1079, 2018.
- 濱野 翔（医・小児科学）：Association of crumbs homolog-2 with mTORC1 in developing podocyte. *PLoS One* 13(8):e0202400, 2018.
- 松本祐磨（医・耳鼻咽喉科学）：Gastrin-releasing peptide is involved in the establishment of allergic rhinitis in mice. *Laryngoscope* 128(11):E377-E384, 2018.
- 中本啓太郎（医・呼吸器内科学）：Comparison of findings on thoracic computed tomography with the severity and duration of bronchial asthma in patients with eosinophilic granulomatosis with polyangiitis. *Respiratory Medicine* 139:101-105, 2018.
- 大田原正幸（医・救急医学）：Microfluidic assay measures increased neutrophil extracellular traps circulating in blood after burn injuries. *Scientific Reports* 8(1) : 16983, 2018.
- 嶋崎鉄兵（医・総合医療学）：Increased relative abundance of *Klebsiella pneumoniae* carbapenemase-producing *Klebsiella pneumoniae* within the gut microbiota is associated with risk of bloodstream infection in long-term acute care hospital patients. *Clinical Infectious Diseases* 68(12):2053-2059, 2018.

第8回学生リサーチ賞（平成30年度） ※学年は決定時

- 「地域と大学」Kグループ 伊藤夏美, 入野遼佑, 岡野嵩大, 坂入寧々, 槻木俊介, 西脇大智, 松島基倫, 松村美里 (医学部1年) 推薦者: 赤木美智男教授 (医・医学教育学)
研究内容: 医学部1年生カリキュラム「地域と大学」研究発表会 最優秀グループ「車椅子利用者のための観光ルート」
- 青木拓史 (保健学部4年) 推薦者: 四倉正之教授 (保・臨床工学科)
研究内容: 第9回関東臨床工学会 学生部門 最優秀演題賞「模擬シャント内血流量測定システムの基礎研究～血管径の影響について～」
卒業論文「血液透析中のシャント血流の測定に関する研究」
- 堀内天真 (保健学部4年) 推薦者: 朝野 聡准教授 (保・健康福祉学科)
研究内容: 卒業論文「健康行動とメタ認知能力の関連性—大学生の睡眠とストレスに関する調査より—」
- 竹山ゆり花 (保健学部4年) 推薦者: 宮澤 博教授 (保・臨床検査技術学科)
研究内容: 卒業論文「各種臨床材料から分離された*Pseudomonas aeruginosa*の β -ラクタム系薬, アミノグリコシド系薬, ニューキノロン系薬耐性と耐性要因について」
- 根本展希 (医学部4年) 推薦者: 久松理一教授 (医・消化器内科学)
研究内容: European Crohn's and Colitis Organization (ECCO) 一般演題ポスターセッション採択「Value of fecal biomarkers are affected by extension of inflammation in ulcerative colitis」
第47回杏林医学会総会 一般演題 優秀賞受賞「潰瘍性大腸炎における粘膜治癒の評価について罹患範囲を考慮した便中バイオマーカーの有用性」
- 齋藤みずほ (医学部6年) 推薦者: 久松理一教授 (医・消化器内科学)
研究内容: 第115回日本内科学会総会「医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ」ポスター発表「多彩な合併症を呈した腸管出血性大腸菌感染症の一例」
- 鷹取堯弘 (保健学部4年) 推薦者: 山本智朗教授 (保・診療放射線技術学科)
研究内容: 卒業論文「シミュレーションを用いた ^{177}Lu SPECTイメージング用コリメータの最適化」
第8回アジア核医学技術学会 (韓国) 英語口頭発表

第8回学生トラベルアワード（平成30年度）

なし

令和元年度杏林医学会 市民公開講演会

タバコ健康障害，肺の病気を考える

令和元年11月16日（土曜日）13：30～（開場 13：00）
杏林大学三鷹キャンパス 第2病棟4階 大学院講堂

プログラム

座長： 石井 晴之 先生
杏林大学医学部呼吸器内科学 教授

13：30-13：40 たばこの害と禁煙の重要性

石井 晴之 先生
(杏林大学医学部呼吸器内科学 教授)

13：40-14：00 肺癌 内科の立場から

高田 佐織 先生
(杏林大学医学部呼吸器内科学 助教)

14：00-14：20 肺癌 外科の立場から

須田 一晴 先生
(杏林大学医学部呼吸器・甲状腺外科学 講師)

14：20-14：30 休憩

14：30-14：50 喘息と肺気腫

渡辺 雅人 先生
(杏林大学医学部呼吸器内科学 講師)

14：50-15：10 間質性肺炎

本多 紘二郎 先生
(杏林大学医学部呼吸器内科学 助教)

15：10- 質疑応答・閉会挨拶

たばこの害と禁煙の重要性

杏林大学医学部呼吸器内科学 教授
石井 晴之 先生

厚生労働省は「喫煙と健康 喫煙の健康影響に関する検討会報告書」を発表しています。タバコは、社会全体に与える損害が4.3兆円とも言われ、喫煙している本人への健康障害だけでなく、受動喫煙となる副流煙（約5,300種類の化学物質が含まれる）でも多くの健康障害を引き起こします。日常生活において、まだまだタバコの健康障害を軽くみていませんか？ 本講演会では、肺の病気、新しい治療法などを紹介していきます。あらためて喫煙が関連する健康障害、肺の病気、を考えてみましょう。

肺癌 内科の立場から

杏林大学医学部呼吸器内科学 助教
高田 佐織 先生

がんによる死亡者数は年間37万人とわが国の死亡原因の第1位を占めており、新規罹患者数も年間約86万人にのぼります。これは日本人の2人に1人が「がん」になり、3人に1人が「がん」でお亡くなりになることを表しています。臓器別にみた死亡率では男性では肺がんが最も高く、女性では大腸がんに次いで2番目に高くなっています。

がんの原因には様々な環境因子（タバコ、大気汚染、アスベストなど）が関係すると言われていています。特にタバコ（喫煙）は以前より肺がんとの関連が指摘され、中でも扁平上皮がんや小細胞がんは喫煙との関連が高いことがわかっています。「1日の喫煙本数」と「喫煙年数」を掛け合わせたものを「喫煙指数」と言い、喫煙指数が400以上は肺がんの危険性があります。600以上は高危険群とされています。また、喫煙は喫煙者本人だけでなく、周囲の人にも影響を及ぼす受動喫煙の問題もあります。

肺がんには組織型の違いにより小細胞がん、扁平上皮がん、腺がん、大細胞がんにおおきく分けられています。これらの診断には組織生検が必要となり、気管支内視鏡検査などで行われます。一方、がんの広がりを知るために全身の検査も平行して行い、「ステージ（病期）」を調べます。確定診断がついたところで外科治療、放射線治療、薬物療法、あるいはそれぞれの組み合わせた治療法が選択されます。最近ではプレシジョン・メディシンといった個別化医療が肺がんの治療では重要になってきています。薬物療法の中には従来から使われている抗癌剤、ある特定の遺伝子異常をもつ場合に適応となる分子標的治療薬、第3の治療薬として近年登場した免疫チェックポイント阻害薬といった新たな治療薬があります。新規薬剤の開発と治療薬の組み合わせによりこの20年で肺がん治療は飛躍的に発展を遂げています。

本公演では肺がんとタバコの関連から、肺がんの診断、治療についてお話ししたいと思います。

肺癌 外科の立場から —肺癌に対する外科治療（低侵襲手術への挑戦）—

杏林大学医学部呼吸器・甲状腺外科学 講師
須田 一晴 先生

【はじめに】現在、肺癌は我が国において高い罹患率維持し、最も多くの方が命を落とす病気となっています。そんな中、肺癌に対する治療はここ数十年で目覚ましい変貌を遂げています。抗癌剤治療については、全く新しい分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬など効果はあるけど副作用（有害事象）の少ない薬が、毎年のように認可され、使用されるようになっております。そんな中、外科的治療も大きく変わってきて来ています。健診率の増加に加え、CTやその他の画像診断の向上により、以前は発見の難しかった小さな肺癌が発見されるようになり、また、ゆっくり進行する肺癌に対しては、切除する肺の量を少なくする「いわゆる低侵襲手術」が積極的に行われるようになってきています。本日は、外科手術の変遷と低侵襲手術という新たな挑戦についてご説明します。

【低侵襲手術とは】肺癌に対する手術は、大きく分けて2つの点で侵襲の低減が試みられています。1つ目は傷を小さくし、術後の痛み和らげる方法です。以前の手術では、筋肉や肋骨を多く切断していたため、術後の社会復帰や日常生活にかなりの支障を引き起こしていました。しかし、現在は、カメラを使った手術（胸腔鏡下手術）や昨年より保険適応となったロボットによる手術などが多くの施設で行われるようになってきています。また、2つ目は切除する肺の量を少なくする取り組みです。小さな肺癌に対しては、切除する量が少なくても十分に根治性が得られることが証明され、これまで、片側1/3～1/2の肺を切除していましたが、患者さんのよっては片側1/10～1/20程度の切除に止めることが可能となっています。

【最後に】手術方法は手術機器や医療技術の進歩により、急速に発達しており、呼吸器外科医もより低侵襲で、根治性の高い治療を提供できるよう日々努力を重ねています。もし、肺癌と診断されても、落ち着いて診断、治療を進めてもらいましょう。

喘息と肺気腫

杏林大学医学部呼吸器内科学 講師
渡辺 雅人 先生

タバコが肺に悪さをする病気を2つ紹介します。ひとつは、喘息、もう一つは肺気腫です。

喘息は、子供からお年寄りまで、全ての年齢の方がかかる病気です。深夜や早朝に急に呼吸が苦しくなったり、咳が止まらなくなることがあります。喘息患者さんがタバコを吸うと、喘息発作の原因になります。また、大人が家でタバコを吸うと、受動喫煙によりお子さんの喘息が悪くなる可能性があります。

肺気腫は、タバコや大気汚染などで肺が破われ、うまく呼吸が出来なくなる病気です。昔は肺気腫と叫びましたが、今は慢性閉塞性肺疾患（COPD）が正しい名前です。タバコは、肺が年をとるスピードを速くします。タバコによる肺の破壊が進むと、COPDを発症します。恐ろしいことに、たとえ禁煙してもCOPDを発症するリスクは下がりません。つまり、タバコはサイレントキラーとして、禁煙後も私たちの肺に悪影響をおよぼします。ただし、禁煙をすれば肺が年をとる速度は緩やかになります。何歳になっても健やかに呼吸ができるように、タバコを吸っている方には禁煙をお勧めします。

この講演では、タバコが私たちの肺におよぼす悪影響を、喘息とCOPDに焦点をあてて解説します。また、喘息とCOPDがおこる仕組みや最新の治療についても説明します。

間質性肺炎

杏林大学医学部呼吸器内科学 助教
本多 紘二郎 先生

肺は、空気の通り道である気道とガス交換（血液に酸素を取り込む一方で、二酸化炭素を放出する）を行う肺胞から成っていて、その肺胞の壁を間質と呼んでいます。間質性肺炎は、原因不明（医学的には特発性と呼びます）あるいは100種類を超えるさまざまな原因から肺の間質に炎症が生じて、ガス交換がうまくできなくなる病気です。間質性肺炎の危険因子として、加齢や遺伝的素因に加え、喫煙も危険因子となります。その他、原因が明らかなものとして、関節に炎症が生じて変形が起こる関節リウマチや特徴的な皮膚症状と筋肉痛を主症状とする多発筋炎・皮膚筋炎などの膠原病（自己免疫性疾患）、抗癌薬・漢方薬・消炎鎮痛薬などによる薬剤性、ほこりやカビ・鳥の分泌物・羽毛などを慢性的に吸入することによりアレルギー反応が生じる過敏性肺炎、職業における、アスベストやシリカなどの粉塵吸入で生じるじん肺、放射線照射によるもの、そしてサルコイドーシスといった肉芽腫性疾患でも見られます。一方、原因を特定できない間質性肺炎は「特発性間質性肺炎」と呼ばれており、その約半数は「特発性肺線維症idiopathic pulmonary fibrosis：IPF」と呼ばれる病気が占めます。IPFの年間発症率は10万人あたり2.23人、有病率は10万人あたり10.0人と報告されています。難病法による医療費助成の対象となる指定難病の一つです。喫煙との関連性については、常習喫煙者は非喫煙者に比べて1.6～2.9倍IPFを発症しやすく、喫煙はIPFのリスク因子です。IPFに肺がんを合併するリスクも喫煙男性で高くなります。進行性の疾患ではありますが、近年、抗線維化薬という進行抑制の治療が導入されてきています。また、特発性間質性肺炎の中にはIPF以外に喫煙が原因と考えられている間質性肺疾患もあり、それらは禁煙のみで良くなることが報告されています。我々はこの間質性肺炎という病気に対し、疾患の進行抑制、または症状緩和などの診療を常に心がけています。

演 者 紹 介

●石井 晴之（専門：呼吸器内科，びまん性肺疾患）
杏林大学医学部呼吸器内科学教室 教授
1993年 昭和大学医学部卒業
2003年 New York州立Stoony Brook校留学
2018年4月より現職

●高田 佐織（専門：呼吸器内科，肺癌診療）
杏林大学医学部呼吸器内科学教室 助教
2001年 杏林大学医学部卒業
2017年 国立病院機構災害医療センター呼吸器内科医長
2019年4月より現職

●須田 一晴（専門：呼吸器外科）
杏林大学医学部呼吸器・甲状腺外科学教室 講師
1996年 杏林大学医学部卒業，杏林大学付属病院第2外科学教室
1998年 田無病院外科
1999年 東京警察病院外科
2001年 東京都済生会中央病院外科
2002年 埼玉県立循環器・呼吸器病センター呼吸器外科
2006年 長岡中央総合病院呼吸器外科医長
2014年 長岡中央総合病院呼吸器外科部長
2019年4月より現職

●渡辺 雅人（専門：呼吸器内科，アレルギー性疾患）
杏林大学医学部呼吸器内科学教室 講師。
1999年 杏林大学医学部卒業
2014年 公益財団法人結核予防会複十字病院呼吸器内科
2015年4月より現職

●本多 紘二郎（専門：呼吸器内科，びまん性肺疾患）
杏林大学医学部呼吸器内科学教室 助教
2005年 杏林大学医学部卒業
2014年 日本赤十字社さいたま赤十字病院
2016年 公益財団法人結核予防会複十字病院呼吸器内科
2018年4月より現職